

19・20世紀フランス絵画

Masterpieces of the 19th and 20th Century French Painting from The National Museum, Belgrade

ベオグラード国立美術館展〔日本初公開〕

遙かな美への憧憬



パブロ・ピカソ《女性の頭部》1909年

主催＝高松市美術館、四国新聞社、西日本放送、東京新聞、ベオグラード国立美術館

後援＝外務省、文化庁、ユーゴスラビア大使館

1991年9月21日(土)－10月20日(日) **高松市美術館**

午前9時－午後5時(入室は午後4時30分まで)

毎週金曜日－午後7時まで(入室は午後6時30分まで)

毎週月曜日休館(但し、9月23日開館・24日休館)

(高松市紺屋町10-4)

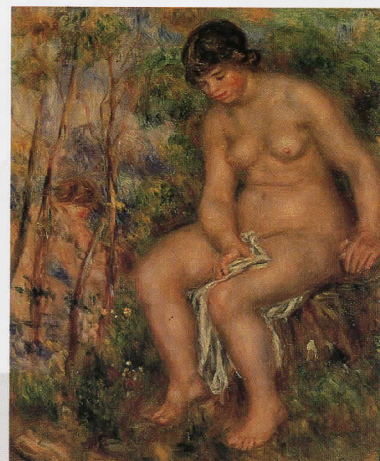
マリー・ローランサン《二人の姉妹》1931年



カミーユ・コロー《ポール＝ベルトーの公園にて》1862年



ビエール＝オーギュスト・ルノワール《水浴する女性》1915年頃



遙かな美への憧憬——知られざる美の宝庫、ベオグラード国立美術館からフランス近代絵画の名品109点を一挙公開

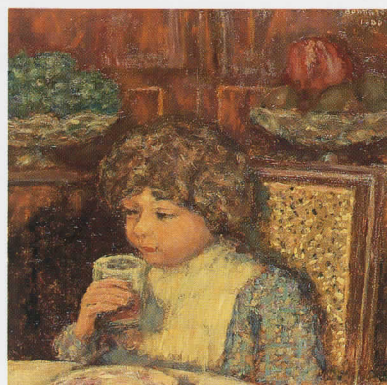
ユーゴスラビアの首都ベオグラードの中心部・共和国広場に面して建つベオグラード国立美術館は、1844年に創設された総合美術館です。現在、1万平方メートルをこえるスペースの中に30万点以上にのぼる収蔵品を擁しており、その質の高いコレクションは東欧諸国内でもプラハ国立美術館に匹敵するものとして知られています。

先史時代の考古資料から現代の作品まで、また地域的にはヨーロッパ各国から極東にいたるその豊かなコレクションの中から、今回の展覧会では、近代ヨーロッパ美術の華といえる19世紀～

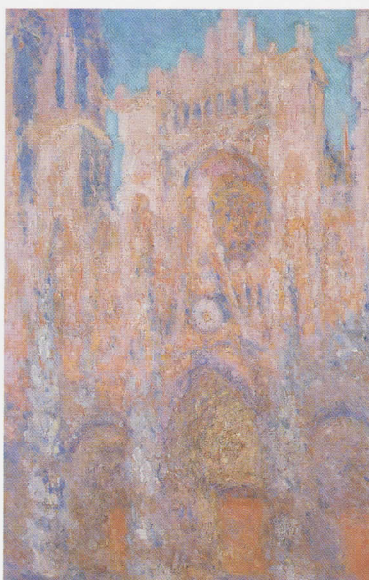
20世紀のフランス絵画を5つの部門に分けて紹介します。

コローなどの自然主義、モネやルノワールに印象派・後期印象派の巨匠たち、象徴主義とナビ派、フォーヴィスム、キュビズム、エコール・ド・パリへと続くフランス美術の大きな流れが、選りすぐったベオグラード国立美術館の代表作109点によって見渡せることと思います。これらの作品のほとんどは永く西側諸国に公開されることなく秘蔵されていたものですが、この機会に知られざる名品の数々をぜひご鑑賞ください。

主な出品作家 J.-B.=C. コロー、H.-J. アルビニエ、E.-L. ブーダン、A. シスレー、C. ビサロ、C. モネ、P.-A. ルノワール、P. セザンヌ、E. ドガ、J.-L. フォラン、M. カサット、P. ゴーギャン、P. シニャック、L. ビサロ、A. ロダン、E. カリエール、O. ルドン、H.-T. ロートレック、P. ボナール、E. ヴュイヤール、M.-D. G. モロー、G. ルオー、H. マティス、R. デュフィ、M. ヴラマンク、A. ドラン、K. ヴァン・ドンゲン、P. ピカソ、A. ロート、R. ドローネー、A.-O. フリッツ、D. スゴンザック、S. ヴェラドン、M. ローランサン、M. ユトリロ



ビエール・ボナール《食事する子供》1900年



クロード・モネ《ルーアン大聖堂》1892年



カミーユ・ピサロ《ベルヌヴァルの風景、午後》1900年

入場料＝一般900円/高大生600円/小中生300円（前売り及び団体20名様以上は2割引）

今回の展覧会のお知らせ

ゴヤからマチスまで

アメリカ最古・ワズウォース美術館展

12月6日（金）～1月26日（日）

ベオグラード国立美術館展・記念講演会

「フランス近代絵画の展開」

講師/千足 伸行（成城大学教授/美術史家）

10月6日（日）午後1時30分より

高松市美術館1階講堂にて

入場＝無料 定員＝先着200名様